

(11)特許出願公開番号

特開平9-277750

(43)公開日 平成9年(1997)10月28日

(51) Int.Cl. <sup>*</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 4 2 D 11/00			B 4 2 D 11/00	V
	15/04		15/04	B
G 0 6 F 17/60			G 0 6 F 15/21	P

審査請求 有 請求項の数11 OL (全 7 頁)

(21)出願番号	特願平8-94505	(71)出願人	592021076 株式会社三和銀行 大阪府大阪市中央区伏見町3丁目5番6号
(22)出願日	平成8年(1996)4月16日	(72)発明者	岡島 貴敏 東京都千代田区大手町1-1-1 株式会 社三和銀行内
		(72)発明者	田上 芳弘 東京都千代田区大手町1-1-1 株式会 社三和銀行内
		(74)代理人	弁理士 宇高 克己

(54) 【発明の名称】 自動記帳式家計簿冊子

(57) 【要約】

【課題】 家計簿としての記帳がＡＴＭで簡単になされる自動記帳式家計簿冊子を提供することである。

【解決手段】 通帳記入機に挿入することにより自動記帳される家計簿冊子であって、前記家計簿冊子は前記通帳記入機で取り扱われる預金通帳とほぼ同じ大きさ、かつ、厚さであり、前記家計簿冊子には、前記通帳記入機に家計簿冊子を挿入した際、この家計簿冊子と該家計簿冊子と共通する名義の預金通帳とを識別でき、かつ、前記預金通帳における入・出金情報の少なくとも一部の特定情報を通帳記入機が接続されている記憶装置から自動的に読み出し、家計簿冊子に記帳できるようにする識別情報が記録されており、そして、家計簿冊子の見開き一ページには複数月分の家計簿記録欄が設けられてなる自動記帳式家計簿冊子。

		マナー・カレンダー				
		年 月	年 月	年 月	自由メモ欄	
入 金	給与、年金				A	
	その他の入金 入金合計					
公 共 の 費 出 金	電気				B	
	ガス					
	水道					
	携帯					
	食料					
	合計					
	生活費引当し				C	
債 権 の 取 扱 い	JCB				D	
	クレジットカード					
	その他					
	他の借金へ				E	
	ローン返済額					
	その他返済					
	現金返済					
	返済合計				F	
	収 入					
	カードローンより					
最終残高						

**⑤5Lのヒント**  
 ニットは毎週、同じものを付けておくことで、やりくりがしやすいです。1週間も経てば、その後の入金がわかってきます。また、お金の流れが一目でわかります。お金の流れが一目でわかるように、お金の流れを把握しましょう。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 通帳記入機に挿入することにより自動記帳される家計簿冊子であって、前記家計簿冊子は前記通帳記入機で取り扱われる預金通帳とほぼ同じ大きさ、かつ、厚さであり、前記家計簿冊子には、前記通帳記入機に家計簿冊子を挿入した際、この家計簿冊子と該家計簿冊子と共通する名義の預金通帳とを識別でき、かつ、前記預金通帳における入・出金情報の少なくとも一部の特定情報を通帳記入機が接続されている記憶装置から自動的に読み出し、家計簿冊子に記帳できるようにする識別情報が記録されており、

そして、家計簿冊子の見開き一ページには複数月分の家計簿記録欄が設けられてなることを特徴とする自動記帳式家計簿冊子。

【請求項2】 家計簿冊子に記録された識別情報は、該家計簿冊子と共通する名義の預金通帳の口座番号に同じ番号と、該預金通帳の口座番号にはない区別情報とからなることを特徴とする請求項1の自動記帳式家計簿冊子。

【請求項3】 家計簿冊子に記録された識別情報は、該家計簿冊子と共通する名義の預金通帳の口座番号に同じ番号と、この番号の後に記録された該預金通帳の口座番号にはない特定記号とからなることを特徴とする請求項1又は請求項2の自動記帳式家計簿冊子。

【請求項4】 家計簿冊子に記録された識別情報は、該家計簿冊子と共通する名義の預金通帳の口座番号に同じ番号と、この番号の前に記録された該預金通帳の口座番号にはない特定記号とからなることを特徴とする請求項1又は請求項2の自動記帳式家計簿冊子。

【請求項5】 家計簿冊子に記録された識別情報は、該家計簿冊子と共通する名義の預金通帳の識別情報が記録されている位置と同じ位置に対応して記録されていることを特徴とする請求項1～請求項4いずれかの自動記帳式家計簿冊子。

【請求項6】 家計簿冊子の見開き一ページには、複数月分の家計簿記録欄と、前記家計簿記録欄の右側にメモ欄とが設けられてなることを特徴とする請求項1の自動記帳式家計簿冊子。

【請求項7】 複数月分の家計簿記録欄は2～4カ月分の家計簿記録欄であることを特徴とする請求項1又は請求項6の自動記帳式家計簿冊子。

【請求項8】 家計簿記録欄は、入金欄と、出金欄と、収支欄とを具備し、前記入金欄は、定期的に入入る入金欄と、その他の入金欄と、合計欄とを具備し、前記出金欄は、定期的に支出される出金欄と、その他の出金欄と、合計欄とを具備してなることを特徴とする請求項1、請求項6、又は請求項7の自動記帳式家計簿冊子。

【請求項9】 家計簿記録欄は、入金欄と、出金欄と、収支欄とを具備し、

前記入金欄は、給与・年金欄と、その他の入金欄と、合計欄とを具備し、

前記出金欄は、公共料金引落とし欄と、保険料引落とし欄と、クレジットカード引落とし欄と、ローン返済欄と、その他の出金欄と、合計欄とを具備してなることを特徴とする請求項1、請求項6～請求項8いずれかの自動記帳式家計簿冊子。

10 【請求項10】 家計簿記録欄に設けられた見出しの表示は、家計簿冊子のページ情報を読み取る通帳記入機の光学手段では読み取ることが出来ないが、肉眼では読み取ることが出来る表示形態で表示されてなることを特徴とする請求項1、請求項6～請求項9いずれかの自動記帳式家計簿冊子。

20 【請求項11】 見開き一ページに設けられている家計簿記録欄は、その真ん中から上下一行分は通帳記入機で記録されることがないようにブランクにされていることを特徴とする請求項1、請求項6～請求項10いずれかの自動記帳式家計簿冊子。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は自動記帳式家計簿冊子に関する。

【0002】

【発明が解決しようとする課題】金融機関には現金自動預入支払機(ATM; automated teller machine)が設置され、取引者によって盛んに使用されている。すなわち、預金の引き出し、預け入れ、振込、その他各種の手続きがATMでなされている。

【0003】ところで、給与や年金などの受け取り、電気・ガス・水道・NHK・電話などの公共料金と称される費用の支払いが、銀行を経由して行われているのが一般的である。そして、これらの内容は、所謂、普通預金通帳にATMによって記帳されている。しかし、普通預金通帳に上記の入金・出金が記帳されていても、記帳されているのが普通預金通帳である為、これでは家計簿としての代わりにはならない。すなわち、入金や出金が混在して記帳され、かつ、項目別に整理されているものではないから、家計簿として一目瞭然と言う訳でない。

【0004】そこで、普通預金通帳に記帳された内容を家計簿に転記することが行われている。しかし、この作業は煩わしい。かつ、手間も掛かる。このような問題点がある程度解決するものとして、実用新案登録番号第3010621号「銀行用自動記帳式家計簿」が提案されている。しかし、この提案の銀行用自動記帳式家計簿では充分なものでなかった。

【0005】従って、本発明が解決しようとする課題は、家計簿としての記帳がATMで簡単にされる自動

記帳式家計簿冊子を提供することである。

【0006】

【課題を解決するための手段】前記本発明の課題は、通帳記入機に挿入することにより自動記帳される家計簿冊子であって、前記家計簿冊子は前記通帳記入機で取り扱われる預金通帳とほぼ同じ大きさ、かつ、厚さであり、前記家計簿冊子には、前記通帳記入機に家計簿冊子を挿入した際、この家計簿冊子と該家計簿冊子と共通する名義の預金通帳とを識別でき、かつ、前記預金通帳における入・出金情報の少なくとも一部の特定情報を通帳記入機が接続されている記憶装置から自動的に読み出し、家計簿冊子に記帳できるようにする識別情報が記録されており、そして、家計簿冊子の見開き一ページには複数月分の家計簿記録欄が設けられてなることを特徴とする自動記帳式家計簿冊子によって解決される。

【0007】尚、上記自動記帳式家計簿冊子における家計簿冊子に記録された識別情報は、該家計簿冊子と共通する名義の預金通帳の口座番号に同じ番号と、該預金通帳の口座番号にはない区別情報とからなる。特に、家計簿冊子に記録された識別情報は、該家計簿冊子と共通する名義の預金通帳の口座番号に同じ番号と、この番号の後に記録された該預金通帳の口座番号にはない特定記号とからなる。あるいは、該家計簿冊子と共通する名義の預金通帳の口座番号に同じ番号と、この番号の前に記録された該預金通帳の口座番号にはない特定記号とからなる。例えば、123456MCのように、該家計簿冊子と共通する名義の預金通帳の口座番号123456の後に自動記帳式家計簿冊子を表示する特定記号MCとからなる。あるいは、MC123456のように、自動記帳式家計簿冊子を表示する特定記号MCの後に該家計簿冊子と共通する名義の預金通帳の口座番号123456とからなる。

【0008】上記自動記帳式家計簿冊子における識別情報は、該家計簿冊子と共通する名義の預金通帳の識別情報、例えば口座番号が記録された位置と同じ位置に記録される。例えば、通帳記入機Tが読み取る情報（口座番号）を書き込む磁性膜などの記録膜が預金通帳に設けられているが、これと同じ記録膜が自動記帳式家計簿冊子にも同じ位置に設けられている。

【0009】上記のようにさせることによって、自動記帳式家計簿冊子が挿入されたのか、預金通帳が挿入されたのかを通帳記入機が認識できる。しかも、誰の名義のものが挿入されたのかを通帳記入機が認識できる。従って、通帳記入機は正しい情報を自動記帳式家計簿冊子に記帳できる。そして、家計簿冊子の見開き一ページには複数月分の家計簿記録欄が設けられてなるから、例えば1年分の家計簿として利用できる。すなわち、見開き一ページには1カ月分の家計簿記録欄しかないとする、自動記帳式家計簿冊子一冊で1年分用にとすると、自動記帳式家計簿冊子一冊に最低12枚は必要となり、その他

の記事欄のことも考慮すると、預金通帳の厚さよりも大幅に厚くなり、対応できなくなる恐れがある。この為、1年分用でなく、半年分用の家計簿とせざるを得なかったりする。これでは家計簿としての効用が半減するが、本発明のものでは見開き一ページに複数月分の家計簿記録欄を設けたから、前記のような問題が解決され、かつ、例えば先月分との対比が一目瞭然であるから、通帳記入機で自動記帳される家計簿冊子として極めて好都合なものとなる。

【0010】更に、家計簿冊子の見開き一ページに、複数月分の家計簿記録欄と、前記家計簿記録欄の右側にメモ欄とを設けたから、感じたことを記帳でき、家計簿としての使用性が向上する。尚、家計簿冊子の見開き一ページに設けられる複数月分の家計簿記録欄は2〜4カ月分の家計簿記録欄であるのが好ましい。すなわち、2〜4カ月分、特に3カ月分の家計簿記録欄を見開き一ページに設けることにより、家計簿冊子の大きさを預金通帳と同じ大きさにした場合でも、記帳内容が明瞭に判るからである。

【0011】家計簿冊子における家計簿記録欄は、入金欄と、出金欄と、収支欄とを具備し、前記入金欄は、定期的に入る入金欄と、その他の入金欄と、合計欄とを具備し、前記出金欄は、定期的に支出される出金欄と、その他の出金欄と、合計欄とを具備してなる。特に、家計簿記録欄は、入金欄と、出金欄と、収支欄とを具備し、前記入金欄は、給与・年金欄と、その他の入金欄と、合計欄とを具備し、前記出金欄は、公共料金引落とし欄と、保険料引落とし欄と、クレジットカード引落とし欄と、ローン返済欄と、その他の出金欄と、合計欄とを具備してなる。このように構成することにより、通帳記入機で記帳される自動記帳式家計簿冊子としての機能が大きく発揮される。

【0012】尚、上記家計簿記録欄に設けられた見出しの表示は、家計簿冊子のページ情報を読み取る通帳記入機の光学手段では読み取ることが出来ないが、肉眼では読み取ることが出来る表示形態で表示されたものである。これにより、誤作動が起き難い。又、見開き一ページに設けられている家計簿記録欄は、その真ん中から上下一行分は通帳記入機で記録されることがないようにブラックにされている。これによって、通帳記入機による記帳がスムーズになされる。

【0013】

【発明の実施の形態】図1〜図10は、本発明に係る自動記帳式家計簿冊子の一実施形態を示すものである。本実施形態にあつては、通帳記入機の代表的な例としてATMで説明するが、本部に設置されているホストコンピュータに接続され、記入できるタイプのものであれば、現金の預入・支払が出来ないものであっても良い。

【0014】本実施形態の自動記帳式家計簿冊子は、名義を同じくする普通預金通帳と縦・横・厚さ寸法が同じ

10

20

30

40

50

ものである。尚、同じとは、同一ATMに挿入できるか否かを基準に判断する。この自動記帳式家計簿冊子の表紙の部分、図1に示される。この表紙には、自動記帳式家計簿冊子を示すものであることの表示「MONEY CLENDAR (商標)」がされている。又、名義を同じくする普通預金通帳の口座番号(店番号を含む)と同じ番号及び名義人を表示する欄1が設けられている。

【0015】表紙の次の見開き一ページには、図2に示す如く、名義人の名前を記載する欄2、普通預金通帳の口座番号と同じ番号を記載する欄3、契約日を記載する欄4、記帳サービス開始月を記載する欄5、手数料引き落とし月を記載する欄6等が設けられている。又、この冊子の使い方が記載されている。次の見開き一ページには、図3に示す如く、複数月分の家計簿記録欄、例えば3カ月分の家計簿記録欄7a、7b、7cが設けられている。又、家計簿記録欄7cの右側に自由メモ欄8a、8b、8cが設けられている。

【0016】家計簿記録欄7aの左側には家計簿記録欄の見出しが表示されている。すなわち、「入金」の表示が有り、この「入金」に対応して定期的に入る入金、例えば「給与・年金」と、「その他の入金」と、「入金合計」の表示がされている。又、「出金」の表示が有り、この「出金」に対応して、定期的に支出される出金、例えば「電気」、「ガス」、「水道」、「NHK」、「電話」、前記項目の「合計」などの「公共料金」の表示が、又、「保険料引落とし」の表示が、又、「クレジットカード」の表示が、更には「クレジットカード」の種類及び合計が表示されている。又、「出金」に対応して、「他の預金へ」、「ローン返済」、「その他の出金」、「現金出金」、「出金合計」が表示されている。

【0017】又、入金額と出金額との差額を示す「収支」の表示が、又、「カードローンより」並びに「最終残高」の表示がされている。ところで、家計簿記録欄7a、7b、7cは見開き一ページに設けられている。この自動記帳式家計簿冊子をATMに挿入して記帳する場合、見開き一ページの真ん中部分9にも記帳するように構成させていると、これまでのATMでは対応できない。そこで、見開き一ページの真ん中部分9には記帳しないようにした。具体的には、記帳する一行分のスペースを二つ、つまり見開き一ページの上半分における下端に一行分のスペース9aと見開き一ページの下半分における上端に一行分のスペース9bとの余白部分を設け、この余白スペース9a、9bにはATMで記帳することがないようにした。

【0018】これにより、家計簿記録欄7a、7b、7cを見開き一ページに設けても支障がない。尚、上記図3に示したページには、ATMで書き込みが行われる。この時、このページには、該ページ等の情報をATMで読み取る為、バーコード情報が所定位置に表示されてい

る。このバーコード情報は光学的手段によって読み取られる。この為、例えば「入金」や「出金」などの表示がバーコード情報と同じ列にあって、これらいずれをも光学手段で読み取るようになっていいると、誤作動が起きる恐れがある。そこで、例えば「入金」や「出金」などの表示はバーコード情報を読み取る光学手段で読み取ることが出来ないようなインクで表示されている。但し、肉眼では読み取れる。

【0019】尚、本実施形態にあつては、上記バーコード情報は、「入金」や「出金」の表示欄の上側、すなわち見開き一ページの左上隅の部分に表示されている。次の見開き一ページは、図4に示す如くになっている。尚、図3と図4との対比から判る通り、家計簿記録欄7a、7b、7cや自由メモ欄8a、8b、8c等は同じものである。

【0020】次の見開き一ページは、図5に示す如くになっている。尚、図3、図4と図5との対比から判る通り、家計簿記録欄7a、7b、7cや自由メモ欄8a、8b、8c等は同じものである。次の見開き一ページは、図6に示す如くになっている。尚、図3、図4、図5と図6との対比から判る通り、家計簿記録欄7a、7b、7cや自由メモ欄8a、8b、8c等は同じものである。

【0021】次の見開き一ページは、図7に示す如くになっている。この見開き一ページ(一枚分)には、「おつきあいメモ」が書き込めるよう構成されている。又、おつきあい費の目安などの情報が記載されている。次の見開き一ページは、図8に示す如くになっている。この見開き一ページ(一枚分)には、「ちょっと便利な暮らしのメモ」が表示・書き込めるよう構成されている。

【0022】次の見開き一ページは、図9に示す如くになっている。この見開き一ページ(一枚分)には、「お買い物プラン」、「プライベートプラン」や「貯蓄目標プラン」が書き込めるよう構成されている。次の見開き一ページは、図示しないが、使用上の注意が表示されている。この後は自動記帳式家計簿冊子の裏表紙であり、図10に示される。この裏表紙には、名義を同じくする普通預金通帳の磁気記録部と同じ位置に磁気記録部10が設けられている。そして、この磁気記録部10には、名義を同じくする普通預金通帳の口座番号(店番号を含む)と同じ番号、例えば123456及び自動記帳式家計簿冊子であることを表示する欧文文字MCが書き込まれている。尚、「123456」と「MC」とは、「123456MC」、「123456 MC」、「MC123456」、「MC 123456」のような形態いずれであっても良い。

【0023】尚、この磁気記録部10は、普通預金通帳において表表紙に設けられておれば、自動記帳式家計簿冊子にも表表紙に設けられる。すなわち、普通預金通帳と自動記帳式家計簿冊子に対比すると、対応する同じ位

置に磁気記録部10が設けられている。

【0024】

【発明の効果】家計簿としての記帳が、例えばATMで簡単になされる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の自動記帳式家計簿冊子の表表紙の図

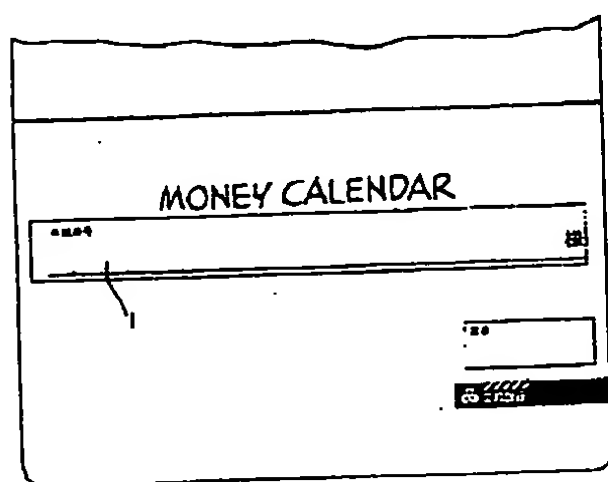
【図2】本発明の自動記帳式家計簿冊子の見開き一ページ（第1, 2ページ目）の図

【図3】本発明の自動記帳式家計簿冊子の見開き一ページ（第3, 4ページ目）の図

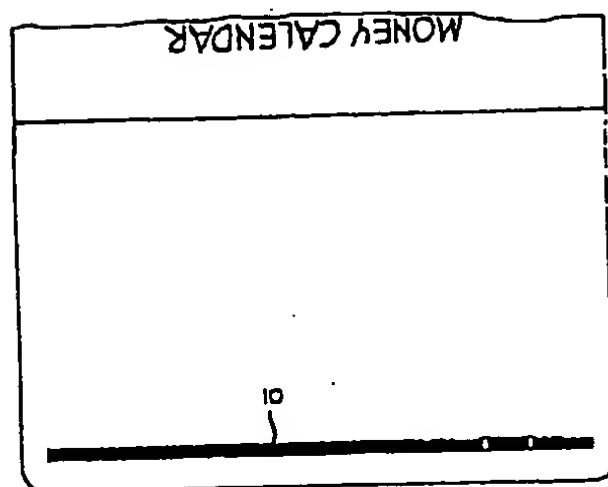
【図4】本発明の自動記帳式家計簿冊子の見開き一ページ（第5, 6ページ目）の図

【図5】本発明の自動記帳式家計簿冊子の見開き一ページ（第7, 8ページ目）の図

【図1】



【図10】



【図6】本発明の自動記帳式家計簿冊子の見開き一ページ（第9, 10ページ目）の図

【図7】本発明の自動記帳式家計簿冊子の見開き一ページ（第11, 12ページ目）の図

【図8】本発明の自動記帳式家計簿冊子の見開き一ページ（第13, 14ページ目）の図

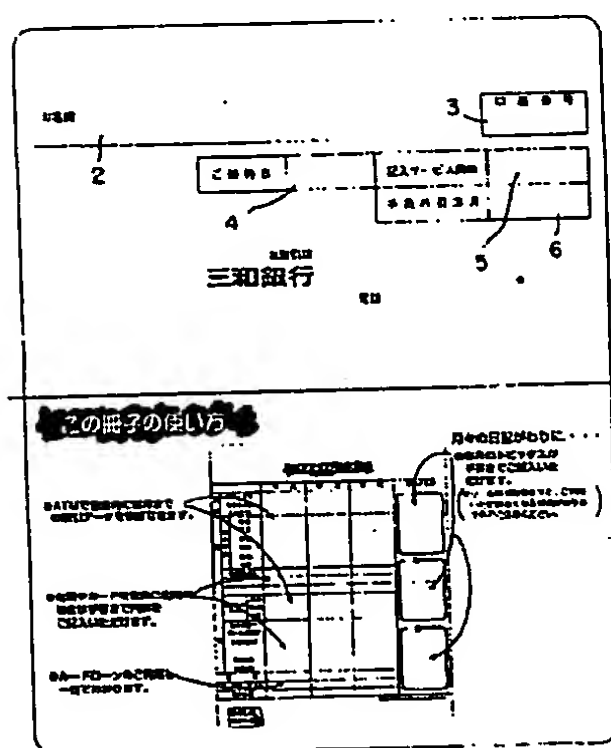
【図9】本発明の自動記帳式家計簿冊子の見開き一ページ（第15, 16ページ目）の図

【図10】本発明の自動記帳式家計簿冊子の裏表紙の図

【符号の説明】

7a, 7b, 7c 家計簿記録欄  
8a, 8b, 8c 自由メモ欄  
9a, 9b 余白スペース  
10 磁気記録部

【図2】



【図3】

マネーカレンダー

7a 7b 7c

8a 8b 8c

7d

【図4】

マネーカレンダー

7a 7b 7c

8a 8b 8c

7d

【図5】

マネーカレンダー

7a 7b 7c

8a 8b 8c

7d

【図6】

マネーカレンダー

7a 7b 7c

8a 8b 8c

7d



